

# 津山市第5次総合計画 第3分科会 第2回 議事要旨

平成27年11月4日(木) 13:30~15:00

津山市役所 第1委員会室

## 1. 開会

## 2. 座長あいさつ

## 3. 当局あいさつ

(事務局) ○改革プログラム と推進方策を2回に分けて審議いただきたい。

本日は7つの担当部局で説明する。

## 4. 協議事項

### 開花プログラム 災害への備えと都市機能の充実したまちづくり

(委員) ○自然と調和した都市整備について、「生活関連施設の衰退が懸念される」とあるが、懸念ではなく現状をきちんと捉え、強い言葉に直していただきたい。

(事務局) 文言を修正し、次回で報告する。

(委員) 東方面に住んでいるが、人口の推移で、特に小学校において、クラスの変動がある。団地ができて子どもたちが増え、今は慢性的な高齢化になっている。もっと若い人たちが入るよう、都市整備で適正に配置できないか。各地域・コミュニティで人口減少を補う方法は。

(事務局) 市内の人口密度、再配置は全般に関わること。若い人たちが増える施策について、都市整備・再配置を含め気を付けて書いている。

具体的にはどこか。

(委員) 例えば魚崎と河辺の間。団地ができた時は、活発だった。どちらに属するか境界線が不明だった。今は高齢化団地になった。

(事務局) 今まで都市計画法でやってきた。これからはコンパクトなまちづくりをしていく。そのための調査検討をしていく。中心市街地・支局・小学校単位で考えていく。

- (委員) 89ページの、津山駅の現在の満足度3は低いのではないかと。何が欠けているのか。施策の方向の3番とも関係する。
- (事務局) 調査を平成23年に実施した。5段階で点数化して按分した。具体的な内容は分からない。指標の満足度を上げるようにする。
- (委員) 駅利用者の利便性の向上とあるが、どうするのか。駐車場をどう解決するのか。その他の方法もあるのか。
- (事務局) 駅利用者とバスの利用者の結節点向上を想定している。駐車場については今後検討する。
- (委員) 90ページ、小さな拠点で「小学校単位」としているが、加茂地域は1校しかない。校区に阿波も含まれている。
- (事務局) 加茂地域については、旧村で考える。表現を変える。4番目の生活拠点は旧町村で、小・中学校区を中心部で拠点を考えている。
- (委員) 小さな拠点とある。各省のモデルや補助事業があるが、指定が済んだらどうなるか。資金が心配なので、考えていただきたい。
- (事務局) 引き続き形成、支援していく。
- (委員) 90ページ5番で地域拠点の支援をしますとある。支援において、金銭面ではどうなるか。
- (事務局) 仕組みづくりの応援をしていく。総合計画で具体化していく。
- (委員) 交通基盤については、県・市とうまく連携している。
- (委員) 効率的な財源で、経常収支比率の目標が85%となっているが、かつては80%が望ましいとしていた。
- (事務局) 社会保障関係費が増え、今は88%を目標にしている。財政の硬直化については、その他の指標もある。
- (委員) 92ページの生活道路について、今ある道路の維持管理をどうするのか。
- (事務局) 市道も長いので、地域で維持管理に努めていただきたい。市の管理費の予算がない。
- (委員) 管理費が出せないと言われたが、何かいい方法を考えてほしい。歴史資産について、城跡周辺地域とはどこか。鶴山のことか。山城は入らないのか。
- (事務局) 城西と城東の間を城跡周辺地域としている。城下町を3つに分けて

いる。

(事務局) 補足で、中世山城については、33ページに記載している。

(委員) 岩屋城について、国の指定を目指しているのをお願いしたい。

(委員) 津山の魅力発信について、細かく地域のことを発信すれば移住があるのでは。

(事務局) 広報は月刊で紙媒体なので遅くなる。リアルタイムにフェイスブックを利用している。また津山珈琲倶楽部など、インターネットで発信している。

(委員) 98ページの2番で、建築物の耐震補助や助成制度が含まれているのか。

(事務局) すでに各種補助事業を行っている。

(委員) 助成制度があるということか。

(事務局) 助成制度はあるが、PR不足で、診断率は上がっていない。

(委員) 防災で、中山間地において、高齢化により消防団員の確保が難しい。消防組合の出張所の充実、消防団の再編がいるのでは。

(事務局) 基本方針にあり、施策の方向で、地域の防災力を高めるとしている。

(委員) 再度、出張所の充実、消防団の再編を考えていただきたい。

山崎断層を考えると、黒木ダムの耐久性は大丈夫か。県と十分協議してコメントを入れては。

(事務局) 黒木ダムとしていないが、土地改良施設の長寿命化で考えている。

(委員) ダムの耐用年数を考えると、これから10年間の計画に入れるべきでは。

(事務局) 63ページに、土地改良施設の長寿命化を書いている。

(委員) あのダムは土地改良施設なのか。

(事務局) 岡山県農林部が管理しており、多目的ダムだが土地改良施設だ。

(委員) ダムを安全安心で管理して欲しいと言っている。土地改良施設かどうかを問うているのではない。ぜひ検討してください。

(委員) 治山治水で、林道の維持管理ができていない。雨が降ると災害が心配。毎年維持管理できるように。

(事務局) 維持管理は難しい。国・県の補助金を活用して、維持管理費を確保する。

- (座 長) 合併地域の意見が多い。  
商工会議所と商工会が今でもあるように、一つにならないとうまく  
いかないのでは。社会福祉協議会は一つになっている。市になれば、  
商工会議所にならなければならない。
- (委 員) 災害予防はあるが、災害が発生した時にどうするかも大事ではない  
か。災害の時に利用する集会所機能を充実することが、一番ではな  
いか。
- (座 長) 防災協定について、それぞれの地域で協定が結べないのか。
- (委 員) 県の役割は広域行政だ。細かい部分は市町村で。
- (委 員) 94ページのJRの乗車数についての目標値で、中身は通常なのか、  
観光客数なのか。その比率は。
- (事務局) 一般の乗降客と観光客、全てを含んだ利用者数だ。
- (委 員) 乗車数が観光客数のどちらかを増やすという考えではないというこ  
とか。
- (事務局) JRは、交通弱者にとって、重要な交通手段と考えている。交流人  
口、まちづくり両方の観点から、必要な増加数を目指す。現状の数字に、5  
カ年で2%増やし、10カ年では4%となる。
- (委 員) 一般客は目減りしているので、観光客でその分を増やすのでは、と  
考えたが、一般客も増えると考えているのか。
- (事務局) 人口の減少はあるが、利用を上げていくという考え方だ。
- (委 員) 96ページの景観保全について、景観は来訪者にどういう効果があ  
るのか。城東・城西を整備するとしているが。
- (事務局) 単なるまちづくりではなく、歴史資産を守ることから考えている。  
現在景観条例の策定の準備をしている。併せて景観計画を来年4月  
に運用を開始する。歴史的城下へ、観光客に足を運んでもらう。そ  
のことによって、滞在時間を延ばし、経済効果上げる。再度、工夫  
をしていきたい。
- (委 員) 110ページでもあるが、コミュニティのリーダーは、3年から5  
年で引退する。辞めていくことに、どう方策を講じるか。市民が能  
力を身に付けるシステムができていない。マンパワーがある時はいい  
が、いなくなってからやることとは違う。市民の役割・責任・位

置を明確にする。現在来られた人が幻滅して帰られているが、そのためにはどう役割分担するのか。一緒になって考える文言が必要では。

(座長) 今言われたことはそのとおりだ。

(事務局) 表現をより分かりやすいようにしていく。

(委員) 102ページで、ため池の維持管理については、「適切」ではなく「積極的」に変えて欲しい。

(事務局) ため池だけでなく、河川等もあるので、担当部局と相談して次回に報告する。

(委員) 有償運送について、河井駅でその先が無い。加茂までお願いしたい。

(事務局) 阿波バスもあるので、検討する。

(委員) 演習場について、合併後も演習場対策は勝北支所でやっているが、本庁では取り組んでいるか。

(委員) 勝北の市民生活係に担当を設けているのは、事業が現場に近い。日米共同訓練は、本庁の地域振興部と一緒に取り組んでいる。

(委員) 奈義町の方が、自衛隊とうまくいっている。合併後、もっとできないのか。

(委員) 面積は、津山18%、奈義町82%。奈義町と連携してやっていく。

(事務局) 98ページの成果目標が仮数字になっている。次回に発表する。

## 5.その他

## 6.閉会